

こんにちは。スクールカウンセラーの室井尚巳(むろいなおみ)です。

子どもは成長と共に、大人との価値観の違いに気付き、小さい頃のように素直な態度では応じなくなることも出てきますが、それは自立の第一歩です。



子どもの問題(私は「課題」と思っていますが)は様々な要因で起こりますが、保護者の責任と考え、一人でがんばってしまう方がおられます。何とかしようと必死になると視野が狭くなり、あまり良い方向に行かないことが多いようです。

問題が改善に向かうとき、子どもは「本当に自分のことを愛してくれているのか」と確認するため、大人を試したりすることがあります。そういう時は問題が悪化したように見えることもありますが、それは必要な過程ですので、正すことも嘆く必要もなく、喜ぶべき変化と捉えていただきたいのです。

でも一生懸命な方ほど、これでいいのかと不安を感じ、必要以上に厳しくつけてしまうことがあります。相談相手がいると客観的に見ることができ、不安を分かち合えると、自分自身に余裕が生まれ、落ち着いて子どもと向き合えます。



大人の基準で子どもを見ると未熟さが目に付きます。細かなことまで指導する方針なら、それ以上に細かく子どもの良い点を見つけ、認めてあげて欲しいと思います。人は注意ばかりが続くと「自分は価値のない人間だ」と思い込みやすくなります。また、体罰はエスカレートしやすく、子どもの心の傷として残るので絶対やめてください。子どものための教育と書いていても虐待と捉えられることもあります。

子どもによって育てやすい子、育てにくい子はいらっしゃいます。持って生まれたものもあるし、環境もあります。周囲が順調に子育てしているように見えると、相談しにくいこともあるかもしれませんが、一人で悩まないでください。子育てに不安、不満、自信がない、など思い当たる方がおられましたら、ぜひお話しに来てください。